

New ☆ ただ今、冬季練習真っ只中です！ ☆



令和4年12月上旬に期末考査が終わり、その日から2月末までの冬季練習に入っています。ある日の早朝のグラウンドは霜柱が立ち、前日に降った雨でできた水溜まりは凍っていました。それでも白い息を吐きながら、ウォーミングアップ、トレーニングから「キャッチ&スロー（葛飾野ではキャッチボールをこう言います）」、ボール回しなど基本練習、広いグラウンドを有効に使ったフリーバッティングのローテーションなど、個々のレベルアップを重視した取り組みが進んでいきます。

この冬季練習に先立ち、選手たちはミーティングで「打力の大幅強化」「守備力の大幅強化」「夏につながる雰囲気作り」をテーマと決めました。それを念頭に、元気よく、力強く、冬季練習に取り組んでいきます。

New☆ 斎藤佑樹さんが「バーチャル高校野球」の取材で来校されました！ ☆

令和4年12月、「バーチャル高校野球」でハンカチ王子こと斎藤佑樹さん(元北海道日本ハムファイターズ投手)がフィールドディレクターとして企画する「未来へのメッセージ」において、葛飾野高校野球部を取り上げていただきました。当日は冬の寒さを感じる空気ではありましたが、晴天に恵まれ、暖かな太陽の下、選手たちは元気よく練習を始めました。

この内容は、12月21日(木)の朝日新聞朝刊に掲載されました。また、以下の「バーチャル高校野球」のサイト内では動画もご覧になれます。葛飾野野球部の取り組みを、ぜひ感じ取っていただければと思います。

朝日新聞 2022.12.21 朝刊掲載 ⇒ <https://www.asahi.com/articles/ASQDM56VWQDMPTQP001.html>

バーチャル高校野球 斎藤佑樹「未来へのメッセージ」 ⇒ <https://sports.yahoo.co.jp/video/player/8985185>



New☆ 齋藤周氏「高校生のためのデータ分析」講座を実施しました! ☆

令和4年12月18日(日)、福岡ソフトバンクホークスのデータアナリストである 齋藤 周(あまね)氏 をお迎えし、「高校生のためのデータ分析」と題して、本校が力を入れている理数教育と野球のデータ分析をコラボした講演を実施しました。試合に関わる様々なデータを収集・分析し、監督やコーチ、選手などが求めている数値を分かりやすく説明して下さいました。

齋藤周氏は、本校野球部監督が都立桜修館中等教育学校在任中、前期野球部(中学野球部)で指導していた時の選手で、後に、高校野球部では2年生夏に内野手として東東京大会ベスト16、卒業後は東京大学に進学し野球部に所属。2年生の途中、ケガもあって学生コーチに転身。同時にデータ分析による東大野球部の勝利に力を注ぎ、六大学リーグで3年間未勝利であった4年生の春と秋のリーグ戦ではそれぞれ勝利をもぎとった。令和4年からプロ野球福岡ソフトバンクホークスのデータアナリストとして活躍されています。



葛飾野

「文武生活三刀流」



今夏の東京大会ベスト16進出
下町から目指す「遙かなる甲子園」

下町の旗・葛飾野。今夏の東京大会で進軍を見せてベスト16進出を果たした。新チームの選手たちは先輩たちの跡を越えるべく一丸となっている。(取材・松井祐一)

■今夏は勝って勝利16強へ進出
葛飾野は有馬台に甲子園を目指す葛飾野。チームは東京で力強い戦いを見せてと共に、個性豊かな選手を輩出。昨年のプロ野球ドラフト会議で甲子園から1位指名を受けて入団した上武大・ブライト健太は、葛飾野OBが。下町のチームは活気が出ている。

前チームは、甲秋に国土選、今春は豊谷にプロック予選初戦で敗退。春予選後、主将の三澤賢大(3年)はブライトに目標を掲げた。都立校初の甲子園1勝。迎えた夏の東京大会は、4回戦ではシード権を獲得するなど10年ぶりの16強進出を果たした。現主将の倉持純真(2年-外野手)は誇りに満ちた。「(所在地が同じ葛飾区の)勝連戦の前日に「葛飾区の旗を塗り替えよう」と全員で誓約書ができました。才野秀樹監督は「勝連戦に勝つことは、今後のチームにとって、すごく大きい。やればできるといえることが実感できたと思います」と語る。

■小山台で甲子園を経験した指揮官
才野監督は、千葉の拓大紅龍出身。高校1年冬にマネージャーに転身し、その後、U-18日本代表監督も務めた。小松守虎の下、3年時は藤田哲也(元ヤクルトほか)、佐藤孝典(元ロッテ)らを抑え、春夏連続で甲子園に出場。秋・春・夏の県大会、秋・春の関東大会を制して県・関東の公式戦は無敗。「東の横綱」と呼ばれた代をチーム・マネージャーとして変えた。「小松監督のように甲子園を目指したい」と高校の指導者となり、中学校教諭を経て紅葉川監督、原修朗監督などを務めた。小山台の助教倉持純真は福嶋正徳監督らと共に、土曜・伊藤保輔(現巨人)を軸に2014年の甲子園初出場に貢献した。そして葛飾野指揮官となった今は、福嶋監督から学んだ経験を生かした指導を行っている。

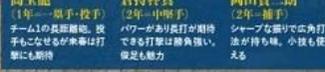
■「勉強」「野球」「生活」を全実践
部員には「勉強」「野球」「(帰宅後の)生活」のすべてに全力で取り組む「文武生活三刀流」を実践させている。「彼らが一軍選手になるには勉強も必要。苦手なことを克服すること、自信や心の強さにつながる。大会の重圧の中で実力を発揮するためには、野球の練習だけでは培えないと考えています」と語る。小山台での経験から「野球日記」も取り入れる。毎日、日記を記入させてチームの「グループLINE」で共有をはかっている。チームメイトを理解し、自分の心と向き合うことが一番の狙いという。現チームは今秋、プロック予選で初めて都大



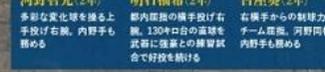
高玉龍
1年-投手(投手)
チーム1の長距離砲。投手もこなせるが本来は打てる打撃は勝負強い。投手にも期待



倉持純真
2年-中野手
パワーがあり長打が期待できる打撃は勝負強い。備えも魅力



岡田賢二朗
2年-捕手
シャープな振りで広角打撃が持ち味。小技も使える



河野智光(2年)
多彩な変化球を揃える。手投げ右腕。内野手も務める



明石柚希(2年)
都内屈指の投手投げ右腕。130km/hの速球を武器に投手との練習試合で好投を続ける



古川葵(2年)
右投手からの制球力。チーム監督、河野同様、内野手も務める

主将のチーム分析

倉持純真 主将
(2年-中野手)

「下町のチームらしく元気よく戦う」
「下町のチームらしく元気よく戦っています。仲間が支えたとともに目標としているのは甲子園だろ!」などと言葉で言い合っている。練習場で奮闘しているのは17-18歳の若い方。絶対にミスはしない。投手に集中しながらも勝ち切りたいという思いも」



打力2
投手力4
守備力4
運動力3
声5

葛飾野・才野秀樹監督 選手、スタッフ全員の力を合わせて

「スタッフのチームワークの良さは葛飾野の大きな特長です。福山樹太郎責任者、松村拓人助教、高田安太郎部長、田河清司部長が、選手が集中できる環境を整えてくれて、技術や精神面の指導など各自が役割を果たしてくれています。選手、スタッフ全員の力を合わせて学校、地域、保護者に勝利を届けたいと思います」

1983年東京都生まれ。千葉・拓大紅龍高-拓大。高校1年夏、3年春に甲子園を経験。大学時代は八王子シニアでコーチを務め、高木大志(高木武史)を指導。中学校教諭を経て、原修朗監督、福嶋正徳監督などを務め、小山台では福嶋監督として2014年の甲子園出場。2018年東京大学野球部、2019年甲子園の監督を務め、2022年に東京都16強入り。

「CHARGE! 11月号」の同様記事 ⇒ <https://monthly-charge.com/charge/13331/>
<https://monthly-charge.com/2022%e5%b9%b411%e6%9c%88%e5%8f%b7/13294/>

New☆ 月刊高校野球『CHARGE!』に掲載されました! ☆

9月に発行された月刊高校野球雑誌『CHARGE!』（チャージ）第104回東西東京大会総集号に葛飾野野球部の戦いぶりが紹介されました。これはベスト16に入った学校が掲載されています。



修徳との亀有対決を制してベスト16 2012年以來の夏5回戦進出



葛飾野が4回戦で修徳に勝利して5回戦進出を決めた。5回戦で文京に敗れたが2012年以來のベスト16となった。

■北川・高橋・明石 勝利の継投策
2回戦・淑徳巣鴨は6回に一挙10点を奪う猛攻で11対4の逆転勝利。3回戦では日比谷相手に終盤に4点を加えて突き放し、7対2の勝利となった。4回戦のシード修徳戦は、葛飾対決。下町の注目が集まる一戦は、5回までスコアが動かない拮抗した好勝負となった。葛飾野は6回に2点を先制すると、エース北川准から、

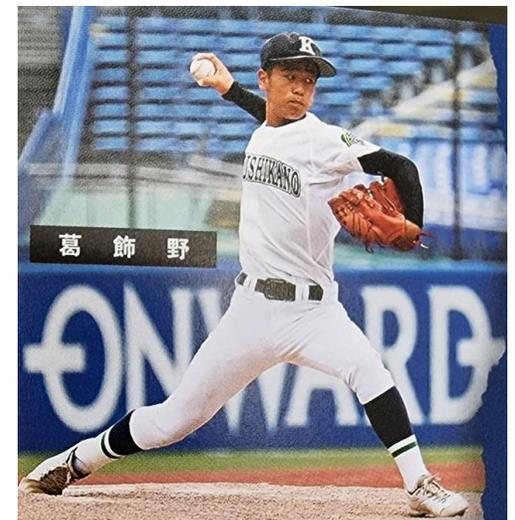
高橋郁真・明石柚希、筑比地幹平へつなく必勝継投リレーで、修徳の反撃を1点に食い止めて3対1で勝ち切った。才野秀樹監督の投手交代のタイミングなど継投策の“妙”がシード相手からの“金星”を導いた。

5回戦の文京戦は激闘だった。先発北川が抜群の安定感でゲームを組み立てていく。0対1で迎えた5回に権飛で同点に追いつく。7回には倉持修真の前打タイムリーで2対1と勝ち越しに成功した。この試合でも北川から高橋、そしてスッター明石へつないだが、9回裏に2失点し無情のサヨナラ負け。投手陣を支えてきた主将の三澤青大捕手は、試合後、空を見上げて、こぼれそうな涙を必死でこらえた。チームのために戦った主将のキャプテンシーも進軍の大きな原動力だった。

葛飾野高校			
1 北川 准	8 倉持 修真	15 河野 龍亮	22 野村 祥大
2 三澤 青大	9 久下 祥弥	16 岸崎 祥大	
3 福田 陽太	10 明石 柚希	17 片山 浩平	
4 井口 優一	11 高橋 郁真	18 田中 誠	
5 古屋 英	12 高田真二郎	19 高田 博夢	
6 五木田 貴	13 矢野 颯希	20 筑比地幹平	
7 門川 誠人	14 小池 權也		
記録員 長藤 賢平・井上 花梨・酒巻 貴			



第104回全国高等学校野球選手権大会 東京大会 5回戦 7月22日	
葛飾野	0 0 0 1 0 1 0 0 2
文京	0 1 0 0 0 0 0 0 3



☆ 2学期中間考査へ向けて【野球部勉強会】(10月中旬) ☆

本校では10月20日(木)から中間考査が実施されます。野球部では毎回の考査1週間前から「野球部勉強会」を朝と放課後に実施しています。さらに、土曜日・日曜日も午前中に勉強会に取り組んでいます。また、考査前のみならず、毎週水曜日の朝にも勉強会を実施するなど勉学にも力を入れて「文武生活三刀流」を実践しています。

高校生としてしっかりと知識と考える力、応用力を身につけて、自分の望む進路決定に繋げるためです。また、正直、逃げたくなるような勉強に挑むことで、心も磨かれると考えています。でも、分かると勉強も楽しいですね。

この勉強会の特徴は自学自習だけでなく「教え合い」をすることです。各自の苦手な教科や分からないところを同級生や先輩に質問して、理解を深めています。昨年度のある日は、3年生数名が英語の苦手な2年生約10名に「英語ミニ講座」を開き、先生のように教えている光景がありました。これには教える側の3年生の学びにもなったようです。

このように野球部では「すべてを全力で取り組もう」という意識をもって生活しています。



☆ 秋季大会一次予選 1回戦 聖パウロ学園に敗れる ☆

9月4日(日)		2022(令和4年)年度 秋季東京都高等学校野球大会 一次予選										試合終了						
会場校	国士舘	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計	
プレイボール	12:16	葛飾野		0	0	0	1	0	0	0	1	0					2	
ゲームセット	14:24	聖パウロ学園		0	0	3	0	1	0	0	X						4	
先攻	葛飾野	後攻		聖パウロ学園										備考				
投手	情報はありません	投手		情報はありません										【一回戦】				
捕手		捕手																
本塁打		本塁打																
三塁打		三塁打																
二塁打		二塁打																

9月4日(日)新チーム初の公式戦が行われました。相手校は西東京の強豪・聖パウロ学園。

残念ながら力及ばず2-4で敗退しました。エースの力投、内野陣の好守備もあり、チャンスも作りましたが、課題も多く露呈しました。この悔しさをもち続け、課題克服へ秋の練習試合から冬の練習へと挑んでいきます。

更なる「文武生活三刀流」を実行して、人間力の向上、身体の向上、技術の向上、知識の向上を図り、来春、来夏へ向かって全員で突っ走ります！

☆ 部活動体験について ☆

令和4年度の部活動体験は終了いたしました。今年度も多くの中学3年生と保護者の皆さまにご参加いただきました。誠にありがとうございました。

練習の見学は随時受け付けておりますので、事前に以下までお問い合わせください。

東京都立葛飾野高等学校 03-3602-7131 野球部顧問 才野（さいの）

ぜひ、本校の施設と、目標に向かって本気で取り組む選手の姿を間近でご覧ください。

本校の施設の特徴は、

- ① 23区内の都立高校で最も広いグラウンドです。
- ② サッカー部と半面ずつの使用でも、フリーバッティングが可能です。
- ③ バッティングマシン3台(うち1台は高いフライを練習できます)を使用して効率のよい練習ができます。
- ④ ブルペンは最大5か所(うち2か所はバッティングと併用)。部活指導員の田河コーチを中心とした投手指導で、公式戦で勝負できる投手を複数人育成(令和4年の夏の大会は4人の投手の継投でベスト16)。
- ⑤ 授業後、外部に移動せずすぐに活動ができることが魅力です。

東東京大会2回戦
vs 淑徳巣鴨戦
[神宮球場]



☆ 夏！東東京大会 5回戦！ ベスト8をかけて文京高校と戦う☆

7月22日(金) 第104回全国高等学校野球選手権大会 東東京大会 試合終了		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計
球場 大田スタジアム																	
プレイボール 13:30	葛飾野	0	0	0	0	1	0	1	0	0							2
ゲームセット 15:40	文京	0	1	0	0	0	0	0	0	2x							3

先攻	葛飾野	後攻	文京	備考 【五回戦】
投手	北川 高橋 明石 筑比地	投手	峰尾 水野	
捕手	三澤	捕手	中村	
本塁打		本塁打		
三塁打		三塁打	尾上	
二塁打		二塁打	板倉2 岡崎 水野 尾上	

[試合経過]

ベスト8をかけて、初戦以来の神宮球場への切符をかけての戦い。文京高校は打線が活発で5点勝負になると予想して臨んだ。葛飾野の先発ピッチャーはこの日も背番号「1」の北川。初回、1アウト2塁のピンチを落ち着いてしのぐ。2回裏、2ベースを打たれ、送りバントで1アウト3塁のピンチ。7番のセカンドゴロの間に1点を失う。その後、毎回のようにピンチを迎えるが、ショート五木田のファインプレー、ダブルプレーなどで何とかしのいでいく。極めつけは5回裏、1アウト1塁から2番・岡崎の打球が左中間へ。この打球をレフトの門川が素早くショート五木田に返球、一気にホームを狙った1塁ランナーに対し、五木田がホームにノーバウンド送球し、間一髪アウト！追加点を許さない。5回表に同点にした直後だっただけに大きなプレーであった。

その5回表は、先頭の7番・小池がサードへ内野安打。8番・古屋の送りバントがエラーを誘い1・3塁。このチャンスに1番・門川がレフトに犠牲フライを放ち同点とした。

7回表、2アウトとなるが、門川が粘りに粘り四球をもぎ取る。盗塁のあと2番・五木田がセーフティバントを決めて2アウト1・3塁。ここで3番・倉持がセンター前タイムリーヒットを放ち、2-1と終盤の逆転に成功する。

6回からマウンドに上がった2番手・高橋が3イニングを無失点に抑えたことが逆転につながった。2-1のまま9回裏へ。あとアウト3つで準々決勝に進める。この最終回からマウンドに上がったのは明石。しかし、先頭に2ベースヒッ

ト打たれ、バントで送られて1アウト3塁のピンチ。ここで1番・尾上にライトオーバーの2ベースタイムリーを打たれて同点に。2番・岡崎に死球を与え、3番・須藤にはセンター前ヒット、1アウト満塁のサヨナラの大ピンチ。ここで4番手・筑比地がマウンドへ。何とか抑えて延長戦への望みを胸にスタンドも固唾をのんで見守ったが、文京高校の勢いは止められず、4番・青山に初球、自信を持って投じたスライダーをライト前に運ばれてサヨナラ負けとなった……。

昨秋、そして、今春ともに一次予選の初戦で国士舘高校、雪谷高校にコールド負けの屈辱を味わい、その悔しさを胸に、それを晴らすべく、日々の練習、練習試合、学校生活、勉強、下校後の生活に取り組んできました。

この大会の4試合を通じて、これまで取り組んできた「文武生活三刀流」の積み重ねによる人間的な成長、技術的な成長をいかに発揮し、本気で、強い思いをもって取り組めば結果を出せるということを体感できました。チームが1つになって「団結」して戦うことの重要性と楽しさも体感できました。スタンドでの必死な応援の控え部員、炎天下の中、一生懸命に練習し応援してくれた吹奏楽部の方々、ダンス部のチアの方々、そして、学校の先生方、地域のみなさま。何と言っても保護者の方々の日々の協力はもちろん私たちの大きな大きな力となりました。誠にありがとうございました。

一方で、最後3つのアウトを取る難しさと大変さ、そして、野球の、勝負の怖さも体感しました。

両方のこの経験を、1・2年生たちが経験できたことは、これからの葛飾野高校にとっては大きな財産となりました。

この財産を最大限に活かすためにも、さらにレベルの高い「文武生活三刀流」を実践していきます。

今後の葛飾野高校にご期待ください。

3年生、次は進路、自己実現に向かって、新たな戦いに臨み、目標を達成することを願っています。

本当に大きく、成長しましたね。



最後の打球が抜けた瞬間

☆ 夏！東東京大会 4回戦突破！ 昨夏ベスト4の修徳高校に勝利！

【ベスト16】 ☆

7月20日(水) 第104回全国高等学校野球選手権大会 東東京大会		試合終了															
球場 都営駒沢		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計
プレイボール 12:39	葛飾野	0	0	0	0	0	2	0	1	0							3
ゲームセット 14:52	修徳	0	0	0	0	0	0	1	0	0							1
先攻	葛飾野	後攻	修徳	備考													
投手	北川 高橋 明石 筑比地	投手	林 竹澤 篠崎	【四回戦】													
捕手	三澤	捕手	若松														
本塁打		本塁打															
三塁打	久下	三塁打	染田														
二塁打	倉持	二塁打	深澤														

[試合経過]

同じ葛飾区の決戦となった4回戦。組み合わせが決まった時からこの日に照準を合わせてきた。

葛飾野の先発ピッチャーはこれまで通り、背番号「1」の北川。初回、2番の深澤にセンター前ヒットを打たれるも3・4番を打ち取り立ち上がりは無難に乗り切る。2回裏も先頭を死球で出し、送りバントで1アウト2塁のピンチとなったが、7・8番を打ち取る。3回は1アウトから1番・染田のレフトへの大きなフライを門川が転倒し3ベースとしてしまうが、2・3番を打ち取り、ここでも先制点を与えない。4・5回もランナーを出すが続を打ち取る。攻撃は1回・倉持の2ベース、3回・門川のヒット、5回・小池のヒットでチャンスを作るも、相手投手の林から決定打が出ずに、5回を終了して0-0の緊迫した展開に。

6回、ついに均衡が破れる。葛飾野は先頭の1番・門川のレフト前ヒットから2番・五木田がバントで送り1アウト2塁とする。ここで修徳は2番手ピッチャーに竹澤を起用。3番・倉持がライト前にヒットを放ち1アウト1・3塁とする。

ここで4番・久下が初球をライトの頭上に運び3ベース！ここでようやく2点を先制する。

その裏、ヒットでランナーを出すも無失点に抑える。7回表は2アウト3塁のチャンスを作るも無得点。

7回裏もエース北川が無失点のままマウンドへ上がる。1アウトから死球、9番・萩原にライト前ヒットを打たれ1アウト1・2塁となったところで、ピッチャーを北川から高橋にスイッチ。高橋は1番への代打・大井をセンターフライに打ち取り2アウトとしたが、2番・深澤にライトオーバーのエンタイトル2ベースを浴びて2-1の1点差となる。しかし、3番・佐藤をショートゴロに打ち取って2-1で終盤の攻防に入る。

8回表、先頭の2番・五木田のセーフティバントが失策を呼び、その後盗塁と四球を絡めて2アウト1・3塁と攻め立てる。このチャンスに、キャプテンの6番・三澤がライト前タイムリーヒットを放ち、3-1とする。

8回裏からマウンドに上がった3番手の明石が8回を無失点に抑え、3-1のまま9回裏へ。2アウトを取るが、すんなりとは終わらない。1番に死球、2番・深澤にこの日3本目となるヒットを打たれて2アウト1・2塁のピンチに。ここで4番手・筑比地がマウンドへ。3番のホームランバッター佐藤に一発が出ると逆転サヨナラの場面。筑比地は2-2と追い込む。渾身の投球の5球目！高く上がったが、ライト・久下のグラブに収まり、ゲームセット！ベスト16進出を決めた。

出場した選手だけでなく、スタンドの控え部員、マネージャー、保護者の方々、地域の方々、そして、学校の先生方や友人たちも一体となって戦った、団結の勝利であった。



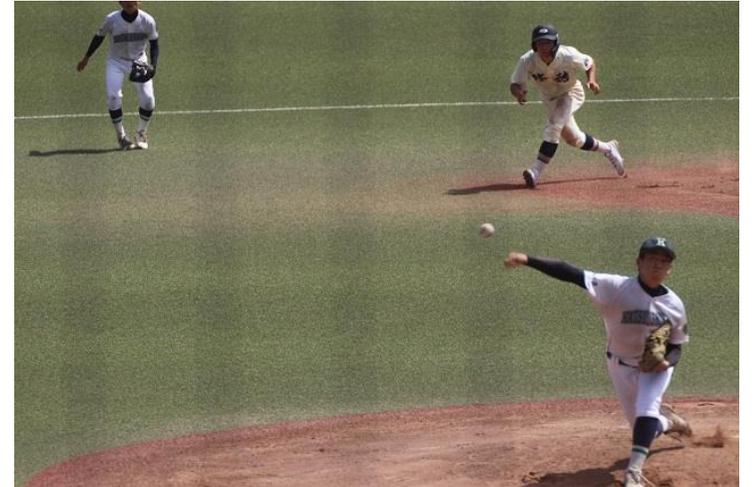
試合前の円陣



3番倉持2ベースを放つ



先発北川が1塁へ牽制球



TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	R	H	E
葛飾野	0	0	0	0	0	2	0	1	0	3	9	1	
修徳	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	7	2	

☆ 夏！東東京大会 3回戦突破！ ☆

7月18日(月) 第104回全国高等学校野球選手権大会 東東京大会		試合終了															
球場 江戸川区		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計
プレイボール 08:55	葛飾野	0	0	0	2	1	0	0	3	1							7
ゲームセット 11:05	日比谷	0	0	0	0	0	0	2	0	0							2
先攻	葛飾野	後攻	日比谷	備考													
投手	北川 高橋 明石 筑比地	投手	昼馬 高橋	【三回戦】													
捕手	三澤	捕手	矢田貝														
本塁打		本塁打															
三塁打	門川	三塁打															
二塁打	久下 小池	二塁打	昼馬														

[試合経過]

両チームのエースが好投していた4回表、先頭の4番久下の右中間2ベースを足がかりに6番小池のスライズなどで2点を先制する。5回表は2アウトからの四球でチャンスを広げ、小池のタイムリーヒットで3-0とする。7回裏に3番手ピッチャー明石が単打・長打を打たれ、その後の五木田のエラーにより3-2と迫られる。しかし、その直後の8回表に、2アウト1塁から天野がレフト前ヒットでつなぎ、小池の2ベースヒット、門川の3ベースヒットで3得点、最終回には久下のタイムリーヒットで7-2とする。9回裏は今大会初登板の筑比地が三者凡退で抑え、4回戦進出(ベスト32)を決めた。

日比谷高校のエースピッチャーも好投手で打ちあぐみましたが、後半の集中打で突き放すことができました。葛飾野エース北川の5回ノーヒットピッチングが光りました。

☆ 夏！東東京大会 初戦(2回戦)突破！ ☆

7月12日(火) 第104回全国高等学校野球選手権大会 東東京大会		試合終了															
球場 神宮		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計
プレイボール 09:00		葛飾野		0	0	0	1	0	10	0							11
ゲームセット 11:21		淑徳巣鴨		0	0	1	0	2	1	0							4
先攻	葛飾野	後攻	淑徳巣鴨	備考													
投手	北川 高橋 明石	投手	宮西 築比地	【二回戦】7回コールド													
捕手	三澤	捕手	中田														
本塁打		本塁打															
三塁打		三塁打															
二塁打	明石 三澤	二塁打	白石														



今年から吹奏楽部の演奏とチアの応援が可能になりました！以前の夏に戻りつつあります！



〔試合経過〕

3回裏、先制点を許すも、すぐさま4回表に四球をきっかけにして得点し同点とする。2・3・5回表もチャンスを作りながらも得点できずにいた5回裏、1アウト2・3塁からセンター前タイムリーを浴びて1-3と引き離される。しかし、直後の6回表、四球を挟んで7連続ヒットを含む9本のヒットで10点を奪って逆転に成功。エース北川から高橋、明石と繋いで淑徳巣鴨打線を4点に抑え、11-4の7回コールド勝ちとした。

ネットニュースにも掲載されています。「日刊スポーツ葛飾野」「スポニチ葛飾野」で検索してみてください！それぞれの記事があります。



☆ 葛飾野高校野球部卒業生 **中日ドラゴンズドラフト1位指名**

ブライト健太選手が本校に来てくれました！！

中日ドラゴンズから令和3年ドラフト1位指名を受けた本校卒業生のブライト健太選手(現、上武大学4年生:外野手)が、12月11日(土)に葛飾野高校に来校してくれました！ 葛飾野高校時代から、とにかくバットを振っていたことや、バッティングの技術面の他、相手投手との対戦における考え方や心構えなどもアドバイスしてくださいました。その中で最も印象に残ったのは「素晴らしいピッチャーに対しては、打ってやる！というよりもこんないいピッチャーから打てたらラッキーと考えて対戦を楽しむこと」という言葉でした。また、「信じれば夢は叶う。成長するタイミングはそれぞれ違うので、努力を継続し、自分が自分を信じるのが大切」という言葉もいただき、「都立初の甲子園1勝」への気持ちを新たにしました。野球部として祝福と期待のメッセージカードを贈りました。1時間ほどでしたが、憧れの先輩、目標の先輩との貴重な時間を過ごすことができ幸せでした。ブライト先輩、大変な世界ですが、躍動するプレーを後輩一同期待しています！！



☆ 葛飾野高校野球部卒業生

上武大学 ブライト健太選手

中日ドラゴンズからドラフト1位指名！！

☆

本校卒業生のブライト健太選手(現、上武大学4年生：外野手)が令和3年10月11日に行われた、プロ野球ドラフト会議で、中日ドラゴンズから1位指名を受けました。

都立高校出身者でドラフト1位指名を受けるのは2016年にロッテから1位指名を受けた佐々木千隼投手(日野高校→桜美林大学)以来二人目で、野手としては史上初です。

現在は強肩、俊足、さらに長打も打てる強打者として評価されています。高校時代もホームランを打てる打者として注目されていました。しかし、大学3年生までは、公式戦出場のチャンスは非常に少ないようでした。その間に体力面、技術面、そして人間力でも地道な努力を続け、今年、大きく花開きました。全日本大学選手権大会という大舞台でも力を発揮した強いメンタルをもち、そして、これからさらに成長する要素もたくさん感じられます。

来年以降の、中日ドラゴンズでのブライト選手の活躍に、大きな期待をもって、盛大に応援しましょう！

頑張れ！ブライト先輩！



中日 ブライト 打点主義

中日1位で名前を呼ばれた上武大のブライトは小さくお辞儀し、「タイトルを狙えるような選手になりたい。打点にこだわりたい」と抱負を語った。都立葛飾野高卒のプロ野球選手は初。上武大の1位指名も初めての快挙になる。「自分は身体能力に頼ってここまで来た。その分、伸びしろがあると感じている。色んなものを吸収したい」と話した。

「子どものころはいやだと思ったこともあったが、今は両親に感謝している。夢を与えられるような選手になりたい」と笑顔を見せた。

部員とポーズをとるブライト

↑朝日新聞 令和3年10月12日付

未完大器の上武大外野手
単独1位
ブライト

父はガーナ人
ナゴヤの輝く星になる。上武大・ブライト健太は中日からの1位指名に「まさか1位だと思わなかった。すごくうれしく思います」とうなずいた。

言葉が忘れられない。「頑張りなさい」と父の言葉を聞き、身体能力はゲタ違い。上武大で「一から野球を学び直し、力を技術に生かすべし」と、長打力につなげた。

脱走過去越え
言葉が忘れられない。「頑張りなさい」と父の言葉を聞き、身体能力はゲタ違い。上武大で「一から野球を学び直し、力を技術に生かすべし」と、長打力につなげた。

大学入学時にかげられた谷口英規監督(52)からの覚悟を決めた秋がある。

大学に入って初めての寮生活。活に加え厳しい練習。「もろやめよう」。1年の9月、午前4時、荷物をまとめ寮を脱走。実家に帰った。その日の午後、同期のチームメイト4人が迎えに来てくれた。「将来、お前が4番を打つんだ。一緒に帰ろう」。涙があふれた。「こ

「苦しい時期を乗り越えて強くなる。今でも、友に感謝している。猪俣達上」の未完の大器。「将来はタイトルを取れる選手になりたい」。力強く、1歩を踏み出した。

ここでやめたら後悔する」。覚悟を決め、野球に取り組んだ。

↑日刊スポーツ 令和3年10月12日付